

聖書：Ⅱサムエル 8：1～18

説教題：行く先々で彼に勝利を

日時：2018年5月13日（夕拝）

このⅡサムエル記8章にはダビデの様々な戦いのことが記されています。カタカナの名前や聞きなれない土地の名前が次々に出て来ますので、読むのが少々きつい箇所ですが、少し忍耐して書かれていることを追って行きたいと思います。まず1節にあるのはペリシテ人への勝利です。ダビデは彼らを討ち、メテグ・ハ・アンマを奪い取りました。並行記事のⅠ歴代誌18章1節を見ると「ガテとそれに属する町々を奪い取った」とありますから、そういう名前の町だったのでしょう。2節はモアブ人への勝利です。ダビデは彼らを討ち、地面に伏させ、測り縄で彼らを測り、縄2本で測った者は殺し、縄1本で測った者を生かしておきました。多くの注解者が言うのは、これは3分の2を殺したという意味だということです。今日の私たちはこれを読んでショックを受けるかもしれませんが、これは当時の文脈で考えなければならないことだと思います。詳しい背景は記されていないため分かりませんが、モアブはこうしてダビデのしもべとなり、貢ぎ物を納める者となります。三つ目は3節のツォバ。そこに出て来るユーフラテス川とは、イスラエルからすればずっと北方の地域ですが、ダビデはそこでも勝利を収めます。四つ目は5節のダマスコのアラム。彼はツォバの王ハダドエゼルを助けに来ますが、ダビデは彼をも打ち負かします。五つ目は9節のハマテ。ハマテはダマスコのアラムやツォバよりももっと北方に位置する地方です。このハマテの王トイはハダドエゼルの脅威にさらされていましたが、その彼をダビデが打ち破ったと聞いて、息子ヨラムを遣わして祝福の言葉を述べさせます。この彼からもダビデは贈り物を受け取ります。そして六つ目が13～14節のエドム人。塩の谷すなわち死海の南端よりさらに南に住む人々です。その彼らもダビデに打ち負かされ、その全部がダビデのしもべとなります。

果たしてこれらの記事は何を語っているのでしょうか。一見、ダビデの勝利がただ羅列されているだけの章にも見えますが、この箇所を読む解くカギとなる表現がきちんと織り込まれています。それは6節と14節の両方の節で繰り返されている表現です。「主は、ダビデの行く先々で、彼に勝利を与えられた。」ここにこの章は単なるダビデの勝利の記録ではなく、主がダビデに与えてくださった勝利の記録であることが示されています。すなわちこれらのダビデの勝利はみな主のおかげによることであり、これは主の恵みのみわざの記録であるということです。そしてそのように見る時に、さらに見え

て来るのは前の7章との関わりです。前の7章ではダビデ契約のことが語られました。主がダビデに対し、一方的な恵みとして、彼の家をどこしえまでも堅く立て、イスラエルを祝福して下さると約束くださいました。その約束はやがてダビデから出るまことの王イエス・キリストによるとこしえの御国の祝福につながるものであることも見ました。そのダビデに与えられた主の約束が、さっそくこの8章で成就し始めている！すなわちこの8章は前の7章とセットで読む時に、その価値とメッセージが良く見えて来る章なのです。

その視点で改めてこの章を見直してみると実に整然と記されていることが分かって来ます。1節のペリシテ人は西側の人々です。2節のモアブ人は東側の人々です。3節以降のツォバ、ダマスコ、ハマテは北側の人々です。そして13節14節のエドムは南側の人々です。これまでイスラエルは事あるごとに周囲の国々から攻め入れられ、悩まされて来ましたが、主はここでダビデの家を堅く立てる祝福を実現し始めておられます。7章10節に「不正な者たちも、初めのころのように重ねて民を苦しめることはない」という御言葉がありましたが、そのことがより一段と成就しています。そしてかつてないほどにイスラエルは神が昔アブラハムに約束されたように、その領土を大きく拡大したのです。

15節以降も無味乾燥な記録ではありません。1節から14節までが外国との関係だとすると、こちらは内政に関することです。ダビデは全イスラエルを治め、その民のすべてにさばきと正義を行いました。これはやがてのメシヤが正義をもって治める姿の映しです。そしてこの支配を確立するための様々な制度が整います。軍団長、史官、祭司、書記、等々。こうした人々が立てられたことによって、イスラエルは外的にも内的にもかつてない平和と安定を享受するようになります。ダビデ契約の十分な成就是、なお将来のメシヤの到来を待たなければなりません。しかしその約束実現に向かつての神の導きはすでに地上に具体的に現われ始めたというのが、このⅡサムエル記8章のメッセージなのではないでしょうか。

これはここを読む者たちにどんなに大きな励ましを与えるものでしょう。私たちはある意味でこの8章の記述がなくても、7章に記された主の約束を信じて生き続けるべきです。しかしこの8章が7章に続いてすぐ記されることによって、どう違って来るでしょうか。これがあることによって、私たちは主の約束は確かに実現されるのだ！という

確信をさらに強く持つのです。主の約束はいつか分からない遠い将来になってやっと動き始めるというものではない。主はさっそくここで動き始めてくださっています。将来完全な形で実現されることの前触れを示してくださっています。このような主が引き続き働いてくださって、ついにはまことの王によるとこしえの御国を確立してくださる。そのような励ましをいただくことができます。

そして時代を下った今日の私たちはさらに大きな確信と励ましをいただきます。なぜならダビデ契約が指し示すダビデの世継ぎの子、約束の王はすでに私たちのところに送られたからです。その方は十字架と復活の戦いを通して、私たちの敵を打ち破り、征服されました。コロサイ書 2 章 15 節：神は「様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。」 天に昇って行く時、イエス様は「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています」と言われました。エペソ書 1 章 20～21 節：神は「キリストを死者の中からよみがえらせ、天上でご自分の右の座に着かせて、すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけでなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました。」 確かにこの神の契約はまだその最終ゴールには達していません。「彼は万物をその方の足の下に従わせた」という御言葉が完全に実現するのはこれからです。しかし神はダビデ契約に従って、ついにはまことの王を送ってくださった。そしてその王はすでに決定的な戦いを成し遂げ、勝利を勝ち取ってくださった。今や歴史は最終局面にあります。私たちはそのことを見て取って心を強くさせられるのです。神は真実なお方です。約束を忠実に果たしてくださるお方です。ご自身の契約に従って世界の歴史を導き、ついにはその最終的実現を導いてくださる方です。

さて、この神の契約に感謝し、神が送ってくださったまことの王の働きに感謝する私たちは、何もしないでただこれを傍観しているだけの者たちではありません。神の民は神が送ってくださった王にならい、その王とともに神の民が召されている戦いに参与すべき者たちです。ですから私たちはここに神が王を通してどんなことをしてくださるかを見るとともに、その王とともに戦う私たちのあり方についてもいくつかの示唆を得ることができます。二つのことを述べたいと思います。一つは私たちが召されている神の国のための戦いは簡単ではないということです。今日の章には「主がダビデの行く先々で彼に勝利を与えられた」と記されていました。これだけを読むとダビデは主の力によって簡単に勝利を収めたかのように思われますが、実際はそうでなかったことが他の箇

所から分かります。参考になるのは詩篇 60 篇です。表題に「ダビデがアラム・ナハラ  
イムやアラム・ツォバと戦っていたとき、ヨアブが帰って来て、塩の谷でエドムを一万  
二千人打ち殺したときに」とあります。これはまさに今日の章に記された戦いのこと  
です。この表題とこの詩篇の内容を読む時に分かることは、ダビデは実際には非常に苦  
しい中を通ったということです。どうやらダビデが北方のツォバと戦っていた時、南から  
同時にエドム人が攻めて来た。ダビデの軍隊が遠い北方の地に出かけた時に南側の敵国  
が、今こそ付け入るチャンス！と攻め込んで来たとしてもおかしくありません。その中  
でダビデがどのように苦しい思いをし、人間的には絶望的な気持ちにもなって主を呼び  
求めたかがこの詩篇に描かれています。その詩篇の最後の 11～12 節でダビデはこのよ  
うに証しします。「どうか敵から私たちを助けてください。人による救いはむなしいか  
らです。神にあって私たちは力ある働きをします。神が私たちの敵を踏みつけてくださ  
います。」 ですから私たちが参与する戦いも、主によって何も困難がないかのように  
思い描いてはならないということになります。困難はあって当然です。ダビデもそ  
うでした。しかしそういう戦いの中で主が力を与えてくださり、行く先々で勝利を与  
えてくださった。ですから私たちも自分の戦いに困難があるということ自体で気落ちしな  
いようにしたいと思います。主はそういう中に働いてくださり、ご自身の約束に従って、  
ついに私たちの持ち場においても勝利をくださいます。私たちもこの主の約束を信じて  
自分が召されている働きに当たりたいと思います。

そしてもう一つはこのダビデの戦いは主のための戦いであったということです。この  
章にはダビデが国々から奪い取った分捕り物のことが色々書かれています。銀、金、青  
銅、等々。なぜダビデはそれらを取ったのでしょうか。自分のコレクションにするため  
でしょうか。自分の楽しみのためでしょうか。そうではありませんでした。11 節に「主  
のために聖別した」とあります。そして他の箇所から分かることは、このダビデの取り  
組みはやがての神殿建築の準備であったということです。後にダビデはソロモンに対し、  
I 歴代誌の中で「私は全力を尽くして、私の神の宮のために準備をしてきた。すなわち、  
金製品のための金、銀製品のための銀、青銅製品のための青銅、鉄製品のための鉄、木  
製品のための木、縞めのう、色とりどりの象眼細工用の石、あらゆる宝石、大理石など  
を大量に準備した。」と語るところが出て来ます。また「主のために建てる宮は、壮大  
なもので、全地で名声と榮譽を高めるものでなければならない。それゆえ、私が用意を  
しておく。」と言って、「ダビデは彼が死ぬ前に多くの用意をしておいた。」と書かれて  
いるところが出て来ます。ダビデは前の 7 章で主の家を建てたいという願いを退けられ

ました。しかし彼はそれでふてくされず、やがての日に素晴らしい主の神殿が建てられるようにと精一杯の準備をしたのです。自分はそれを建てる榮譽にあずからないのに、自分の目はその日を見ることができないのに、ダビデはこのことに心を砕いたのです。このことはダビデが自分の名誉や幸せのためではなく、ただ主の栄光のため、主の御名があがめられるために仕えたことを示しています。それは前の7章で神の契約を受けたダビデが「神、主よ、私は何者でしょうか。私の家はいったい何なののでしょうか。あなたが私をここまで導いてくださったとは。」と述べたように、神の恵みに心から感謝していたからでしょう。ですから「行く先々で勝利を与える」という神の祝福は、私たちの個人的野望、個人的趣味、個人的事業に当てはまることではありません。私たちも主の救いに感謝して、主のご計画に沿って、主のために果たすべき役割や働きがあります。その主の栄光のための戦いにおいて、この章で述べられている祝福は私たちにも当てはまるのだと言えます。主の栄光と主の御国のためになされる働きにおいて、私たちは主がくださる勝利を経験することができるのです。

神は真実な方です。7章で契約を更新し、今日の8章でその契約の成就に向かって導き始めてくださった神は、ついにこの契約が指し示す約束の王を遣わしてくださいました。神はこの契約によって、その最終的成就の日まで、これからも確実に導いてくださいます。私たちはこの真実な神を見上げて感謝し、神が今や遣わしてくださった約束の王に従い、その方のもとにある平和に生かされたいと思います。そして私たちもその王のもとにある御国の一兵卒として与えられた持ち場で主とともに戦い、困難を乗り越えて勝利をくださる神に信頼して、約束の御国がさらに拡がり、完成することのために仕え、用いられる特権と幸いに生かされて行きたいと思います。